

さわらうエコナビ通信

第11号・発行
平成23年3月1日
早良区生活環境課
TEL:833-4341
協力
早良区環境活動
連絡会議

42年目！

新年初めての清掃活動

田隈団地自治会

平成23年1月16日（日）朝8時半、松岡勇一田隈団地自治会会長の一斉清掃の開始を告げる声が、団地内のスピーカーから聞こえてきました。『本日の当番は、大公園（田隈公園）は13組



田隈公園での清掃活動

と14組、17組、小公園は19組、集会所は21組……。今日は寒いので、たくさん着込んで来てください。』

当日は、強い風が吹く氷点下の天気でしたが、寒い中にもかかわらず清掃をしている人の輪から、笑い声が出るなど、元気で仲が良い様子が見られました。

同自治会は、毎月第3日曜日に一斉清掃を行っています。清掃活動に合作せて地域集団回収も行っており、一輪車に新聞紙や雑誌（ぞつがみ）などを積み、慣れた手つきで、集会所横まで運んで来ている方も見られました。

松岡会長は、「昭和44年8月3日に団地内全20組で自治会が発足し、各組対抗運動会やキャンプ、一斉清掃、集団回収など、一緒に楽しみ汗を流すことを続け、住民同士の交流が生まれました。」と語りました。

田隈校区では、昨年8月に、田隈団地自治会と校区に住む重松好（よしみ）さん、恵美子さん夫婦が、月一回、

団地内の公園や道路などの一斉清掃、路面の点検を41年間続けられた道路愛護運動の功績で、国土交通大臣表彰を受賞されました。



一斉清掃に合わせて、地域集団回収

自然観察会！

四箇田の植物と生き物を知る

四箇田公民館

四箇田公民館（平田マサ子館長）は、昨年の10月9日、永沼慶右氏（元四箇田公民館館長）を講師に、四箇田の植物と生き物についての学習会を開きました。

午前10時、公民館に集まった子どもたちは、永沼さんから稲穂を1本づつ

渡され、もみ粒を数えると、平均で50粒付いていました。「1粒の種もみは、2千粒、お茶碗2杯分ものお米に生まれ変わる」との話を聞き、みんな驚いていました。

また、永沼さんからのヒントや校区で発行した図鑑「四箇田にある植物」 「四箇田にいる生き物」を利用し、用意されたゴーヤや落花生などの植物やオオクワガタなどの昆虫の名前当てクイズを楽しみました。



公民館で、植物や昆虫の名前当てクイズ

学習会の後、公民館近くの道端で、エノコログサ（俗称「ねこじやらし」）やスズメノヒエ、オヒシバ、メヒシバの見分け方や、畑のオクラ、ハクサイ、ダイコン、水菜、ゴーヤなどの名前に

ついで学習しました。



公民館近くの道端で、植物を観察

草の根の国際協力

中国内^{うちもうちこ}蒙古自治区を訪ねて
平川 武彦(脇山公民館館長)

今、地球環境に異変が起きています。昨年9月、植林のため中国内^{うちもうちこ}蒙古自治区に行かれた、脇山公民館の平川武彦館長に話を伺いました。訪問先は、九州の西方約三千キロの中国奥地に位置し、砂漠化が進んでいる地域です。

―植林に参加されたきっかけは。

黄砂が飛来する季節になると、目や喉に刺激を受けます。一方、童謡「月の砂漠」は夢の世界を連想します。一度現地を見て体験したいと思い、黄砂防止団(※一口メモ参照)に参加しました。



黄砂防止団の勇姿

―活動中のご苦労は。

地平線まで続く荒野の高速道路を走ること3日間600km。食事や植林活動時以外はバス移動でした。雨が降っても、雨宿りの場所もなければ、日差しを避ける木陰もなく、強風を避ける所ありません。何が何でも「お天

気」次第でした。

―植林はいかがでしたか。

強風と乾燥に強いスナナツメとソウ(現地に自生する低木)を約千本植樹しました。砂漠での植林は、乾燥に耐えるように深く植えます。1m程掘ると水の出る場所がありますが、塩水です。そこで、少し深く掘り、周りを踏みしめ窪地にして、時々降る雨が根元に集まるようにして植えます。それでも、根着くのは20%程度です。

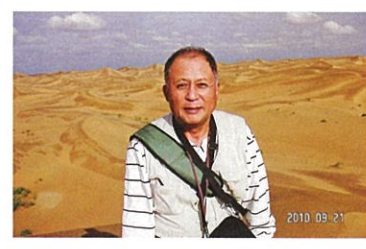
―思い出に残った事は。

二つあります。

一つは、黄河中流の浮橋(川幅約300m)を歩いて渡ったことです。洪水のように濁流の流れる黄河に、砂漠化した広大な大地が、迫りつつありました。

それと、四輪駆動車での砂漠走行です。見渡す限り幾重にも連なる砂丘を、転倒するのではないかと思う程、揺られながら突っ走ること一時間余。静寂で目が眩^{まよ}しい砂漠

のど真ん中に、無数の水鳥が戯^{たむ}れるみどりに包まれた湖「オアシス」がありました。夢の国に来たようで、これが「月の砂漠」を連想させました。



中国内^{うちもうちこ}蒙古自治区の砂漠での植林



一口メモ 黄砂防止団

オイスカ西日本研修センターが主催し、黄砂の発生地の一つである中国内^{うちもうちこ}蒙古自治区アラシャン地区で、オイスカ・アラシャン砂漠生態研究研修センターや村人と共同で、砂漠の緑化を行うボランティア活動です。